

野村いくよ
市政報告だよりNo.32
2023. 1.27

一般質問（12月16日）

すべては子どもたちの今・未来のために…

新型コロナウイルス感染症の影響による生活が4年目を迎えるとしています。仕事を失った人々など、コロナ禍は、弱い立場の人々により大きな困難をもたらしています。

ロシアによるウクライナ侵略も2年目を迎えています。さらに、食糧やエネルギーのサプライ・チェーンが破壊され、その影響で、日本でも物価高騰が続き、賃金水準が改善しないために多くの人々が経済的困難に直面しています。

昨年6月にこども基本法とこども家庭庁設置法が制定され、今年4月1日から施行されます。これにより、子どもの貧困問題についても、「こども施策」という新しい枠組みが動き出します。

「子ども予算倍増」という声も聞きましたが実現されず、政府は国民的議論を経ることなく防衛予算倍増の方針を決定し着々と「憲法9条改悪」の既成事実を積み上げようとしています。子どもの貧困問題の解決に本気でとりくむ姿勢を感じられません。

チルドレンファーストで、政治はすすめていくべきであり、子どもたちの未来に責任を果たせる大人でありたいと強く思います。4月には枚方市議会議員選挙があります。6回目の挑戦をする予定です。「すべては子どもたちの今・未来のために」「子どもの笑顔があふれるまち、枚方」に引き続き全力でとりくむ決意です。昨年の12月定例会では、今任期最後の一般質問を行いました。昨年の「4・27文科省通知」が、支援教育の根本的な考え方を問うことになりました。「ともに学びともに育つ」大阪の教育・インクルーシブ教育とは、を考えるきっかけになっています。

「インクルーシブ教育とは、社会のインクルージョンのためのもの」「まさしく「多様性を誇りに 分かち合いを力に 支え合いを安心に」です。

文科省だけでなく、日本政府は多岐にわたって国連の権利委員会から勧告を受けています。「人権尊重のまちづくりについて」を今任期最後の一般質問の大きなタイトルにしました。私が政治の場にいる一番の目的です。「誰一人取り残さない」一人ひとりが大切にされるまちづくりを皆さんとともに進めていきます。

元旦街宣
山田府議会議員と

連合政策・制度予算に対する要請（12月22日）



辻元国政報告会（10月21日）

号外
立憲民主
RIKKEN MINSHU

2023 冬号
号外
立憲民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1 三宅ビル7F
電話03-3595-9988
https://cdp-japan.jp/

野村いくよの
活動日誌 (抜粋)

おもな活動を記載しています

Facebookもやっています

野村いくよ公式ホームページ URL:nomura-ikuyo.com/

9月

- 2(金) 枚教組主催学習会「枚方の支援教育を聞く」講師 長尾祥司さん 津田茂樹さん
- 9/8~10/13 9月定例会月議会（2021年度決算特別委員会を含む）
- 11(日) 高齢社会をよくする女性の会大阪主催 学習会「介護とジェンダー～ケアするのは誰～」森 詩恵さん(大阪経済大学教授)「介護」「ケア労働」という言葉に潜むジェンダーの問題について気づきが多くありました。
- 26(月) 9.26「国葬」反対 大阪総がかり集会とサイレントデモ 立憲民主党大阪府連を代表して挨拶しました。
- 27(火) 消防組合議会臨時会

「国葬」反対大阪総がかり集会
(9月26日)

10月

- 7(金) 人権まちづくり協会現地研修会 水平社博物館見学 3年振りの現地研修会です。
- 8(土) 五常小学校運動会 3年振りに孫の運動会を家族として楽しみました。規模が縮小されても子どもたちは楽しそう！
- 立憲アカデミーおおさか 水平社宣言記念碑（10月7日）
- 第6回講座「地方の自治の現場から」講師：中川智子前宝塚市長 修了式
- 10(月・祝) 有田芳生さんトークイベント「統一教会と政治の関係は、どう築かれてきたか？」 ゲストの河野美代子さんによると、性教育へのパッシングは統一教会によるものだということ、家庭が壊れるからだそうです。日本会議の背景に統一教会、妙に納得しました。
- 13(木) 枚方市追悼式
- 22(土) とめよう！ めざそう！ 戦争への道 アジアの平和 2022関西のつどい
- 23(日) 女性解放共闘研修会「フィールドワーク ウトロ平和祈念館 立憲民主党大阪府連ジェンダー平等推進委員会の多くが参加しました。コロナ禍で久しぶりの集まりが嬉しかったです。
- 28(金)~29(土) 日本女性会議in鳥取くらよし 4年振りの現地での開催にワクワクして、分科会も記念シンポジウムも内容に満足し有意義な時間となりました。
- 30(日) 第14回五常校区秋の文化祭 3年振りの開催に、五常フェスとの共同開催、体育館ステージでの子どもたちのパフォーマンスが大盛り上がりでした。
- 日政連議員近畿ブロック学習会 ①「加害者家族の現状と支援」NPO法人スキマサポートセンター理事長 佐藤仁孝



水平社宣言記念碑（10月7日）



ウトロ平和祈念館（10月23日）

さん②「職も住まいも失った人々の支援の現場から」東京都足立区議会議員 小椋修平さん

11月

- 2(水) おおさかヒューマンライツ自治体議員の会総会・記念講演「子ども・居場所の包括連携によるモデル地域づくり」岡本工介さん（一社・タウンスペースWAKWAK業務執行理事兼事務局長
- 3(木・祝) 城北ハッキョを支える会総会・城北ハッキョ秋まつり 城北ハッキョは来年度から統合されるので、最後の総会及び秋まつりとなります。寂しいですね。かがやけ憲法！ 11.3大阪総がかり集会 立憲民主党大阪府連の代表として挨拶いたしました。
- 8(火) 枚方寝屋川消防組合議会全員協議会・行政視察 堺総合防災センター、大阪市高度専門教育訓練センター
- 9(水) 市政75周年記念式典
- 11(金) 北河内地区教組教育改革フォーラム「大阪のインクルーシブ教育～私たちにできること～」一木玲子さん（東洋大学客員研究員）「ともに学びともに育つ」大阪の教育に誇りを持つことができる内容で元気にまりました。
- 13(日) 第3回五常校区コミュニティ協議会合同会議
- 15(火) 大阪広域水道企業団議会11月定例会
- 17(木) いきいき作品展 毎年退職教職員のみなさんの素晴らしい作品が集合します。私も退職後には何か提出できるかな、と考えていましたが、実はすでに退職者会のメンバーでした。
- 23(水・祝) 連合大阪政策・政治フォーラム第9回総会
- 24(木) 枚方市人権文化セミナー「孤立からつながりへ」～イラク人質事件と自己責任論。対人恐怖症とひきこもり。若者たちとのつながりとNPO法人設立へ～今井紀明さん
- 26(土) 日中国交正常化50周年記念行事 講演と音楽のつどい
- 29(火) ユネスコ「世界の記憶」登録5周年記念 特別展示「朝鮮通信使の記憶」

立憲民主党青空街宣
(11月3日)消防組合議会行政視察
(11月8日)

12月

- 3(土) 多文化教育セミナー第4回研修会IN神奈川・相模原「夜間中学を新設した町からの報告」子どもの貧困MLで知った研修に政務活動費を使って出かけました。外国人労働者問題に詳しい指宿昭一弁護士の「外国人の人権問題と労働問題」が強く印象に残りました。
- 6(火) 憲法第9条を誇りにする会総会・記念講演「教育と愛国」斉加尚代さん お話を聴いて、再度映画を観たいと思いました。
- 8~22 12月定例会月議会
- 19(月) 連合河北地区協議会として、枚方市長に「2023年度政策・制度予算に対する要請」を行いました。
- 23(金) 第3回枚方寝屋川消防組合議会定例会

2023年 1月

- 7(土) であいの会 淀川ハイキング
- 8(日) 枚方寝屋川合同消防出初式 河川敷 例年は五常校区コミュニティ協議会主催のどんど焼きに参加するのですが、今年は消防組合議会議員なので久しぶりの出初式に参加しました。
- 9(月・祝) 第74回「枚方市はたちのつどい」 18歳成人ではありますが、枚方市は20歳でお祝いをするということで「成人式」とは言わず「はたちのつどい」と。

9月定例会議会一般質問

1. 男性用トイレへの サニタリーボックス設置について

既に本庁、分館等のバリアフリースイートイレにはサニタリーボックスが設置されている。男性用トイレでは、サニタリーボックスを置くスペースが課題ということなので、工夫をしてさらに設置の拡充を要望。

2. 「自死」予防対策について

厚生労働省の2021年「自殺対策白書」においては、10代の死因における国際比較で日本は死因の1位が自殺（自死）となっている。

「ひらかた いのちのホットライン」をはじめとした相談窓口の周知、「枚方市いのちを支える行動計画（枚方市自殺対策計画）」の第2期計画の策定に向けて市民の意識調査と同内容のアンケートを実施、その結果等を施策に活かし、子どもたちがSOSを出しやすい環境整備を優先的にとりくむことを要望。

3. 子どもを守る条例について

今年度は、子どもの権利擁護に向けた相談体制の充実の一環として、子ども相談課を設置。学校においても「子どもの権利」について学んでいることを確認。

条例の条文にある「社会の決まりを守り、他者の権利を尊重し、他者を大切にすることを育むこと」、なぜ「社会の決まりを守り」が人権尊重よりも先にあるのかが理解できない。「普遍的な人権尊重」よりも先にある「社会の決まり」を「共生のための相互尊重のルール」というが、基本的人権よりも尊重されるルールはないことを昨年に続き強調した。

4. 支援教育について

4.27付文科省通知に法的拘束力はあるのか、15時間以上という数字に法的根拠はあるのか、を問い、通知そのものは指導・助言であり、15時間以上の数字には根拠はないことを確認。

地域の学校内に支援学級があることは、分離教育であるという私の認識も明らかにした上で、以下4点を要望。

- ① 支援学級での授業時数、週の15時間以上の縛りをなくすこと
- ② 早期に全校に自校通級指導教室を設置すること
- ③ 同時に全校に特別教育支援の複数配置をすること
- ④ 学級編成において、市独自でとりくんでいる支援学級在籍児童を含めた算定（いわゆるダブルカウント）を国・府へ求めていくこと



女性に対する暴力をなくす運動（11月18日）

12月定例会議会一般質問

1. 人権尊重のまちづくりについて

（1）ヘイトスピーチ及びインターネット上の 誹謗中傷等について

インターネット上のヘイトスピーチや誹謗中傷等に影響を受け、放火等の事件を起こす若者もいる。社会的な大きな問題である。市としても許さない姿勢を示すべきで禁止条例の検討を要望。

（2）LGBTQに係る取組について

パートナーシップ宣誓制度導入から4年、26組が利用。今後、さらに子ども等を加え、家族として市が公に証明するファミリーシップ制度の導入の検討と懇談会で当事者の意見を聴きながら、さらにとりくみをすすめるよう要望。

（3）性の教育について

子どもたちが性犯罪・性暴力の加害者にも被害者にも傍観者にもならないために、文科省の「生命（いのち）の安全教育」としての性の教育が実施されているが、「性交・妊娠の経過は取り扱わない」というのはどめ規定がある。はどめ規定をなくし、一人ひとりの人権を尊重するという考えの上に立った包括的性教育の実践を推進すべきと意見。

（4）ひとり親家庭支援について

就学援助制度について、認定基準額においてひとり親の場合、市独自の優遇措置をとっている市がある。枚方市には独自の優遇措置はないが、認定基準等で受給申請の判断に迷う場合でも、まず申請書の提出を促すことを丁寧に文書で説明をするよう要望。

（5）今後の枚方市の支援教育 「ともに学び ともに育つ」について

① 支援教育に係る庁内委員会及び枚方市支援教育充実審議会について

「ともに学び ともに育つ」理念に変わりがないということならば、庁内委員会及び支援教育充実審議会で論議する「支援教育」の意味するものは、障害の有無に関係なく、ともにいることによって育ちあうことであり、学校園のすべての子どもたちが対象になると意見。

「ともに学び ともに育つ」はインクルーシブ教育と同じことであるが、インクルーシブ教育について共通認識ができていない。「障害者の権利に関する条約第24条」に書かれてあることを共通認識すべきである。現状では、支援学級での授業時数の縛りを外すこと。審議会委員に、インクルーシブ教育の研究者や学者、障害のある子どもの保護者等を必ず選ぶこと。「ともに学び ともに育つ」理念のもとに支援教育基本方針の検討も要望。

2. 子どもの相談体制について

2023年度から実施する「SNS相談事業」は児童生徒に配布されているタブレットを活用することであるが、タブレットはあくまでもツールであり、それだけに頼ることのないように、子どもの気持ちの変化等に気づける環境、信頼関係が必要である。そのためにも精神的、時間的な余裕が教員には必要であることを強調。

18歳までの子ども対象にも2023年度中の導入予定だが、孤立した若者は多いと聞く、大学生までも含めた相談の充実及び支援団体へつなげていくことを要望。

3. 教職員の多忙化解消について

教員・講師不足について、確保が急務であること。ICTを活用し便利にはなったが、アンケート調査の増加等、これまでは無かった仕事が増えている点、また、学校規模による課題の違い等もあることを訴え、具体的なとりくみを聞き、業務アシスタントのような方の全校配置、欠員解消のために有効な手立て等、今まで以上に働き方改革の強力な推進を要望。

12月17日（土）研修会 枚方市自立支援協議会・幹事会主催

講演：「障害者権利条約」対日審査・総括所見と地域の課題を考える

講師：崔 栄繁さん（認定NPO法人DPIH 本会議）

報告者①：「文科省通知に観る日本のインクルージョン教育と枚方のとりくみ」野村いくよ

報告者②：「精神障害者の地域移行のとりくみについて」河野和永さん（NPO陽だまりの会）

崔さんは、総括所見の勧告（強い要請）が出された5条、11条、12条、14条、19条、24条、33条について勧告内容、主な課題、国や自治体に求められること、全体として総括所見と課題を述べられました。障害者権利条約について理解を深めることができました。

前日に、一般質問で支援教育について、「インクルーシブ教育とは」の質疑を行っていたのですが、自分の述べたことが間違っていなかった、と確認できホッとしました。

報告①では、4.27文科省通知について、枚方市教育委員会の乱暴な学校現場への下ろしかたから始まった動きとその結果の報告をしました。

結果

当初全学校に通級指導教室の設置と言っていたが、全中学校には設置されるが、小学校には計21校への設置になったこと。

保護者等の働きかけなどにより、支援学級在籍児童生徒は週半分（15時間）以上の授業時数を支援学級で受けるということはとりえず撤回され、期限も決められていない。

しかし、通知内容そのものが撤回されたわけではない。

⇒「支援学級での授業時数半分以上の縛りをなくすこと」についての要望を続けていく。

12月議会で決まりました！

子ども医療費助成の拡大（2023年8月制度開始）

現制度の対象年齢15歳まで（その年齢となる年度末まで）

→18歳（その年齢となる年度末まで）に拡大

19歳～22歳までを対象に、一時的に大きな負担となる入院費の自己負担分を助成

出産・子育て応援事業

妊娠時から出産・子育てまで
一貫した伴走型相談支援の充実
経済的支援（計10万円相当）

継続的に
一体的に実施

（詳細は広報ひらかた2月号に掲載されます）

ご意見・ご質問がございましたら e-mail：194-nomura@mfv.biglobe.ne.jp（野村）までお寄せください。